

# 新型インフルエンザ対応除菌剤

Dr.無敵



安定型複合塩素製剤

製造元: 有限会社ジーティーシー

# スプレー及び詰め替え用をご用意しました。



500ml入り

廃棄処分の簡単なロンテナーを採用

中身を使い終えたら潰して廃棄できます。



5L入りと10L入りをご用意しました。  
5L入り:20cm角  
10L入り:25cm角

# ここが他社製品と違う

- **強力** 消毒用エタノールや従来型塩素製剤より強力
- **無臭** 一般的な次亜塩素酸ナトリウムのような刺激臭がありません。
- **安全** アルコールと違い、引火爆発しません。トリハロメタンを生成しません。
- **無漂白** 一般的な塩素系と違い、絨毯やカーテン、ソファなどが色落ちしません
- **安心** アルコールと違い手も荒れません。目や口に入っても安全
- **無害** 空中散布しても電子機器をいためません。金属についても錆びません。
- **長期安定性** 塩素濃度の管理が簡単です。備蓄・保存が可能です。



手が荒れません

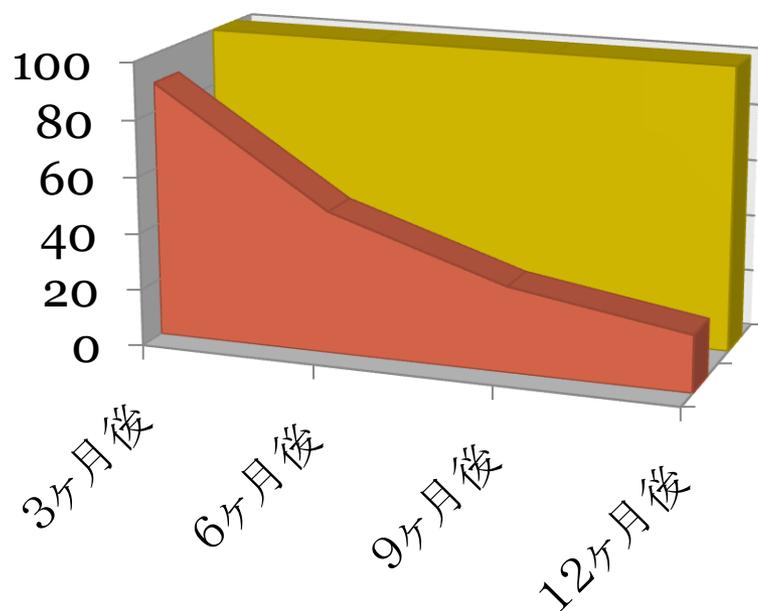


金属が錆びません



電子機器を傷めません

# 次亜塩素酸ナトリウムと劣化速度が違います



Dr. 無敵  
次亜塩素酸ナトリウム

製品の劣化速度が遅いので結果的に格安に

- 次亜塩素酸ナトリウム
- Dr. 無敵

・次亜塩素酸ナトリウムは6ヶ月後には有効塩素濃度が半減

除菌効果が変わらないので医療現場での濃度管理が簡単です。常温＋専用保存容器で10年たっても使用可能

# 商品比較



## 除菌効果

	Dr. 無敵	アルコール	次亜塩素酸ナトリウム
黄色ブドウ球菌	◎	◎	◎
MRSA	◎	◎	◎
大腸菌	◎	◎	◎
緑膿菌	◎	◎	◎
サルモネラ菌	◎	◎	◎
腸炎ビブリオ	◎	○	◎
ノロウイルス	◎	X	◎
インフルエンザウイルス	◎	○	◎

# 商品比較



	Dr. 無敵	アルコール	次亜塩素酸ナトリウム
安全性(皮膚)	異常なし	異常なし	毒性あり
安全性(経口)	異常なし	毒性あり	毒性あり
安全性(目の粘膜)	異常なし	使用しない	毒性あり
引火・爆発	なし	有り	なし
保存・管理のしやすさ	◎	○	×
色	透明	透明	透明から薄黄色
効果時間	即効性+継続性	即効性	即効性
金属腐食	なし	なし	あり

# なぜ、除菌剤が必要なの？



- 人やペットが室内で**おう吐**したものをそのままにしておくと、ウイルスが室内に舞い上がり感染していない人にも病気をうつしてしまいます。**感染予防のため**に除菌が必要です。おう吐物に多めに「Dr.無敵」をスプレーした後に片付けましょう。片付けが終了後、床やおう吐した場所の周辺、作業者の衣類、及び作業者自身に「Dr.無敵」をスプレーして、しっかりと除菌しましょう。
- **インフルエンザウイルス**などは飛沫感染や手を媒介して感染します。そのため、マスクや感染者が触ったドアノブ、テーブルや蛇口などに「Dr.無敵」をスプレーし、除菌しましょう。「Dr.無敵」なら**金属も錆びません**。
- **食中毒の予防**にまな板や包丁の除菌が必要です。特に生カキを出すお店には、常備して欲しいものです。**ノロウイルス対策**
- アルコールでは除菌できないウイルスが多く、塩素系の除菌剤が有効であるのはわかっておりましたが、塩素特有の臭いや絨毯やカーテンなどにスプレーした場合の色落ち、毒性が問題となり敬遠されてきました。「Dr.無敵」は**強力な除菌力に無臭、無漂白、安全、長期安定性**を実現した画期的な除菌消臭剤です。

# 「Dr.無敵」の安全性

安心

安全

- **経口**: 飲み込んでしまった場合の急性毒性試験  
(マウスに対する急性毒性試験で異常が認められませんでした。)
- **目粘膜**: 目に入ってしまった場合の急性毒性試験  
(マウスに対する局所刺激性試験で異常が認められませんでした。)
- **皮膚**: 皮膚に付いた場合の急性毒性試験  
(マウスに対する局所刺激性試験で異常が認められませんでした。)

試験機関: 東京食品技術研究所

爆発や引火の危険性も  
ありません

\* アルコールは引火の恐れあり

# 安全性に対する試験検査成績書



食第Y01107L号  
平成21年7月24日

## 試験検査成績書

社団法人東京都食品衛生協会  
東京食品技術研究所  
〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10  
ISO 9001認証取得(食品試験検査)

ご依頼の試験品の試験検査結果は以下のとおりです。

受付日	平成21年7月2日
試験品	安定型複合塩素製剤 会社名：有限会社 ジーティーシー
検査内容	マウスに対する局所刺激性試験(眼粘膜)

### 試験検査結果

試験方法	①塗布用試料の調製 試験品そのものを点眼用試料とした。 ②使用動物および点眼方法 マウス(4dY系、雄、2匹)を用いた。点眼はマウスの1眼の結膜嚢内に1回行った(点眼量：0.02ml)。 ③観察方法及し期間 点眼終了直後、1時間後、24時間後、48時間後、72時間後に眼病変(角膜・虹彩・結膜の異常および結膜浮腫など)の兆候について観察した。
観察結果	マウスに眼病変を認めない。

東京食品技術研究所 〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10 (TEL 03-3934-5821, FAX 03-3934-5827)  
本成績書を転載する場合は当研究所の承認をお受けください。



食第Y01107K号  
平成21年7月24日

## 試験検査成績書

社団法人東京都食品衛生協会  
東京食品技術研究所  
〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10  
ISO 9001認証取得(食品試験検査)

ご依頼の試験品の試験検査結果は以下のとおりです。

受付日	平成21年7月2日
試験品	安定型複合塩素製剤 会社名：有限会社 ジーティーシー
検査内容	マウスに対する局所刺激性試験(皮膚)

### 試験検査結果

試験方法	①塗布用試料の調製 試験品そのものを塗布用試料とした。 ②使用動物および塗布方法 マウス(4dY系、雄、3匹)を用いた。塗布24時間前にマウスの腰・背部(約6cm <sup>2</sup> )を剪毛した。塗布は剪毛した腰・背部にガラス棒を用いて1回行った(塗布量：約0.4ml)。 ③観察方法及し期間 塗布終了直後、1時間後、24時間後、48時間後、72時間後に紅斑と浮腫の兆候について観察した。
観察結果	マウスの皮膚に異常(紅斑および浮腫)を認めない。

東京食品技術研究所 〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10 (TEL 03-3934-5821, FAX 03-3934-5827)  
本成績書を転載する場合は当研究所の承認をお受けください。



食第Y01107J号  
平成21年7月24日

## 試験検査成績書

社団法人東京都食品衛生協会  
東京食品技術研究所  
〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10  
ISO 9001認証取得(食品試験検査)

ご依頼の試験品の試験検査結果は以下のとおりです。

受付日	平成21年7月2日
試験品	安定型複合塩素製剤 会社名：有限会社 ジーティーシー
検査内容	マウスに対する急性毒性試験(経口)

### 試験検査結果

試験方法	①投与液の調製 試験品そのものを投与用試料とした。 ②使用動物および投与方法 マウス(4dY系、雄、5匹)を投与前4時間絶食させ、経口ゾンゲ針を用いて胃内に1回強制投与した。投与量は体重1kg当たり試験品30ml相当量。 ③観察方法及し期間 投与後の異常の有無について、1週間観察した。
観察結果	マウスに異常を認めない。

東京食品技術研究所 〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-19-10 (TEL 03-3934-5821, FAX 03-3934-5827)  
本成績書を転載する場合は当研究所の承認をお受けください。

安全性も第三者機関で確認済みです。

# 信頼出来る第三者機関で検査済みです

## 第三者機関での検査試験データがあります

インフルエンザウイルス、ノロウイルスをはじめ、各種ウイルス、菌類に対し、その効果について第三者機関にて試験を行っております。

ノロウイルスに対する試験データ  
試験機関:ビジョンバイオ株式会社  
(農林水産省も委託している試験機関)

- ・ノロウイルスはアルコールでは除菌できませんが、「Dr.無敵」なら除菌できます。
- ・ノロウイルスはおもに生ガキで感染し、感染した生ガキを調理したまな板や包丁でサラダなどでも感染が拡大していきます。

COPY

報告日：平成21年3月12日  
報告書No.：1614-24177

有限会社 ジーティーシー 御中

VISION BIO  
ビジョンバイオ株式会社  
〒839-0864  
福岡県久留米市百年公園1-1  
久留米リサーチセンタービル1F  
TEL (0942) 36-3100 FAX (0942) 36-3101

### 検証試験結果報告書

#### 分析結果

実験内容：抗ノロウイルス効果の検証  
検体名：安定型複合塩素除菌・消臭剤  
濃度：原液（有効塩素濃度 1,250mg/L）  
処理時間：10分  
検査方法：RT-PCR法  
受付日：平成21年2月26日

電気泳動写真  
(ノロウイルス陽性の場合は344bpの位置にバンドが出現)

検証項目	結果
① 対照区（ノロウイルス懸濁液）	陽性（+）
② 対照区（精製水添加処理）	陽性（+）
③ 試験区（安定型複合塩素除菌・消臭剤添加処理）	陰性（-）
④ 試験区（安定型複合塩素除菌・消臭剤添加処理）	陰性（-）

試験区ではノロウイルス遺伝子が検出されなかった。  
よって、本検証試験条件下において、検体（安定型複合塩素除菌・消臭剤）の抗ノロウイルス効果が確認された。

<※試験の詳細は別紙参照>

◇本分析結果は、提出された試料に関するものであり、試料の母集団の属性について証明するものではありません。  
◇弊社は当判定結果に限り責任を負うものであり、分析結果の取り扱い或いは分析結果によって生じる問題について関与するものではありません。

分析責任者  
[Red Seal]

COPY

Copyright (c) 2008 Visionbio All Rights Reserved.

# どんなウイルスに除菌効果があるの？



- インフルエンザウイルス
- ノロウイルス
- パルボウイルス
- コロナウイルス
- 大腸菌 (O-157など)
- 黄色ブドウ球菌
- 緑膿菌
- サルモネラ菌
- 腸炎ビブリオ
- MRSA 黄色ブドウ球菌

効果確認済みのウイルスおよび菌類

・新型インフルエンザもインフルエンザと同様に除菌効果があります。

# 即効性の除菌力

すばやく菌類を除菌します。

菌数測定(菌数の経時的变化)

サンプル	菌名(大腸菌: Escherichia coli)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.2 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.2 \times 10^5$	$1.0 \times 10^5$	$1.4 \times 10^5$	$1.6 \times 10^5$	$1.3 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

サンプル	菌名(黄色ブドウ球菌: Staphylococcus aureus)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.8 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.8 \times 10^5$	$1.7 \times 10^5$	$1.3 \times 10^5$	$1.3 \times 10^5$	$1.4 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

サンプル	菌名(緑膿菌: Pseudomonas aeruginosa)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.6 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.6 \times 10^5$	$1.4 \times 10^5$	$1.6 \times 10^5$	$1.7 \times 10^5$	$1.6 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

サンプル	菌名(メチチリン耐性黄色ブドウ球菌: MRSA)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.3 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.3 \times 10^5$	$1.3 \times 10^5$	$1.1 \times 10^5$	$1.1 \times 10^5$	$1.2 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

サンプル	菌名(サルモネラ: Salmonella enteritidis)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.4 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.4 \times 10^5$	$1.5 \times 10^5$	$1.0 \times 10^5$	$1.2 \times 10^5$	$1.2 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

サンプル	菌名(腸炎ビブリオ: Vibrio parahaemolyticus)				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
1 安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈	$1.9 \times 10^5$	<10	<10	<10	<10
2 Control	$1.9 \times 10^5$	$2.4 \times 10^5$	$2.0 \times 10^5$	$2.2 \times 10^5$	$2.2 \times 10^5$
	<10: 検出せず				CFU/mL

安定型複合塩素 除菌消臭剤 10倍希釈 = 125ppm

京都微生物研究所調べ

- 大腸菌 (O-157など)
- 黄色ブドウ球菌
- 緑膿菌
- メチチリン耐性黄色ブドウ球菌
- サルモネラ菌
- 腸炎ビブリオ

京都微生物研究所調べ

# 菌類に対する除菌効果の検査成績書

No. 8042

## 試験検査報告書

平成21年2月27日

依頼者： 有限会社 ジーティーシー 様

平成21年2月14日 当研究所に依頼された供試品について試験した結果、  
下記のとおりであることを証明致します。

厚生労働大臣登録検査機関

社団法人 京都微生物研究所  
京都市山科区上山久保町1-1  
Tel 075-593-3320 Fax 075-593-3310

検査責任者：宮本 昌信

1. 供試品名：安定型複合塩素除菌・消臭剤 10倍希釈
2. 試験目的：抗菌力評価試験
3. 試験方法：殺菌力評価

供試品を滅菌精製水で指定された希釈倍率に希釈し試験液とした。試験液10mlに、  
10<sup>7</sup> の菌液 0.1mlを接種し、25℃で静置し、経時的に生菌数を測定した。対照は滅菌  
精製水10mlに菌液 0.1ml接種し、これより菌数を測定した。

4. 使用菌株：*Pseudomonas aeruginosa* NBRC-12689  
Methicillin resistant *Staphylococcus aureus* IID-1677  
*Salmonella enteritidis* NBRC-3313  
*Vibrio parahaemolyticus* NBRC-12711
5. 使用培地：標準寒天培地（栄研）  
Mueller Hinton II (BBL)

### 6. 試験結果：

菌名	菌数の経時変化				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
<i>Ps. aeruginosa</i>	1.5×10 <sup>6</sup>	<10	<10	<10	<10
MRSA	1.2×10 <sup>6</sup>	<10	<10	<10	<10
<i>Sal. enteritidis</i>	1.4×10 <sup>6</sup>	<10	<10	<10	<10
<i>V. parahaemolyticus</i>	1.6×10 <sup>6</sup>	<10	<10	<10	<10

### Control 試験結果

菌名	菌数の経時変化				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
<i>Ps. aeruginosa</i>	1.5×10 <sup>6</sup>	1.0×10 <sup>6</sup>	1.9×10 <sup>6</sup>	1.7×10 <sup>6</sup>	1.5×10 <sup>6</sup>
MRSA	1.2×10 <sup>6</sup>	1.4×10 <sup>6</sup>	1.0×10 <sup>6</sup>	1.5×10 <sup>6</sup>	1.3×10 <sup>6</sup>
<i>Sal. enteritidis</i>	1.4×10 <sup>6</sup>	2.4×10 <sup>6</sup>	1.2×10 <sup>6</sup>	1.1×10 <sup>6</sup>	1.6×10 <sup>6</sup>
<i>V. parahaemolyticus</i>	1.6×10 <sup>6</sup>	1.3×10 <sup>6</sup>	1.4×10 <sup>6</sup>	2.3×10 <sup>6</sup>	1.7×10 <sup>6</sup>

\* <10：検出せず

単位：CFU/ml

No. 8041

## 試験検査報告書

平成21年2月27日

依頼者： 有限会社 ジーティーシー 様

平成21年2月14日 当研究所に依頼された供試品について試験した結果、  
下記のとおりであることを証明致します。

厚生労働大臣登録検査機関

社団法人 京都微生物研究所  
京都市山科区上山久保町1-1  
Tel 075-593-3320 Fax 075-593-3310

検査責任者：宮本 昌信

1. 供試品名：安定型複合塩素除菌・消臭剤 10倍希釈
2. 試験目的：抗菌力評価試験
3. 試験方法：殺菌力評価

供試品を滅菌精製水で指定された希釈倍率に希釈し試験液とした。試験液10mlに、  
10<sup>7</sup> の菌液 0.1mlを接種し、25℃で静置し、経時的に生菌数を測定した。対照は滅菌  
精製水10mlに菌液 0.1ml接種し、これより菌数を測定した。

4. 使用菌株：*Escherichia coli* NBRC-3972  
*Staphylococcus aureus* NBRC-12732
5. 使用培地：標準寒天培地（栄研）  
Mueller Hinton II (BBL)

### 6. 試験結果：

菌名	菌数の経時変化				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
<i>E. coli</i>	1.1×10 <sup>5</sup>	<10	<10	<10	<10
<i>St. aureus</i>	1.4×10 <sup>5</sup>	<10	<10	<10	<10

### Control 試験結果

菌名	菌数の経時変化				
	初期	5min-1	5min-2	5min-3	平均
<i>E. coli</i>	1.1×10 <sup>5</sup>	1.7×10 <sup>5</sup>	1.6×10 <sup>5</sup>	1.0×10 <sup>5</sup>	1.4×10 <sup>5</sup>
<i>St. aureus</i>	1.4×10 <sup>5</sup>	1.9×10 <sup>5</sup>	1.8×10 <sup>5</sup>	2.2×10 <sup>5</sup>	2.0×10 <sup>5</sup>

\* <10：検出せず

単位：CFU/ml

# インフルエンザウイルスは接触と同時に不活性化

新型インフルエンザも瞬間除菌

表3 安定型複合塩素除菌消臭剤のインフルエンザウイルスに対する不活化効果試験

試験群	試験の 繰り返し	感作時間とウイルス含有量の推移		
		0	1	3(分)
対照群	1	$3.5 \times 10^4$	$1.4 \times 10^5$	$1.0 \times 10^5$
	2	$6.0 \times 10^4$	$9.0 \times 10^4$	$6.0 \times 10^4$
	3	$8.0 \times 10^4$	$8.5 \times 10^4$	$1.1 \times 10^5$
	平均値	$5.83 \times 10^4$	$1.05 \times 10^5$	$9.00 \times 10^4$
	対数変換値	4.77	5.02	4.95
10倍希釈試験液	1	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	2	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	3	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	平均値	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	対数変換値	$<2.00$	$<2.00$	$<2.00$
	LRV	$>2.8$	$>3.0$	$>3.0$
15倍希釈試験液	1	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	2	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	3	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	平均値	$<10^2$	$<10^2$	$<10^2$
	対数変換値	$<2.00$	$<2.00$	$<2.00$
	LRV	$>2.8$	$>3.0$	$>3.0$

ウイルス含有量は、試料1mLあたりの値を記載した。

99.72パーセントが不活性化

99.9パーセントが不活性化

インフルエンザウイルスは型式が違っても効果は同じです。接触と同時に分解消滅してしまいます。

手からの感染が多く、手洗い時の使用や、感染者が触ったドアノブやテーブルにスプレーして使います。

# 豚伝染性胃腸炎ウイルスも即不活性化

コロナウイルス

畜産業界では待望の除菌剤

形を変えて  
人、犬、猫、  
鳥にも感染

7日以内の哺乳豚の致死率は、ほぼ100%

呼吸器系、肝臓、小腸、中枢神経系、の疾患の原因となる

表2 安定型複合塩素除菌消臭剤の豚伝染性胃腸炎ウイルスに対する不活性化効果試験

試験群	試験の 繰り返し	感作時間とウイルス含有量の推移		
		0	1	3(分)
対照群	1	5.50	5.00	5.25
	2	5.50	5.50	5.50
	3	5.25	5.25	5.75
	平均値	5.4	5.3	5.5
10倍希釈試験液	1	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	2	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	3	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	平均値	≤1.5	≤1.5	≤1.5
	LRV	≥3.9	≥3.8	≥4.0
15倍希釈試験液	1	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	2	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	3	≤1.50	≤1.50	≤1.50
	平均値	≤1.5	≤1.5	≤1.5
	LRV	≥3.9	≥3.8	≥4.0

ウイルス含有量は、試料1mLあたりの値を対数変換して記載した。

99.981パーセント不活性化

# 犬パルボウイルスも即不活性化

犬コロリ病

ブリーダーも安心の除菌剤

表1 安定型複合塩素除菌消臭剤の犬パルボウイルスに対する不活性化効果試験

試験群	試験の 繰り返し	感作時間とウイルス含有量の推移		
		0	1	3(分)
対照群	1	5.50	6.25	5.75
	2	5.50	5.25	5.50
	3	6.00	6.00	5.75
	平均値	5.7	5.8	5.7
10倍希釈試験液	1	2.75	≤1.50	≤1.50
	2	3.50	≤1.50	≤1.50
	3	3.00	≤1.75	≤1.50
	平均値	3.1	≤1.6	≤1.5
	LRV	2.6	≥4.2	≥4.2
15倍希釈試験液	1	3.00	≤1.50	≤1.50
	2	3.75	≤1.50	≤1.50
	3	3.50	≤1.50	≤1.50
	平均値	3.4	≤1.5	≤1.5
	LRV	2.3	≥4.3	≥4.2

ウイルス含有量は、試料1mlあたりの値を対数変換して記載した。

99.27パーセント不活性化

99.9927%不活性化

ペットに  
最適

です。に直接かけても大丈夫  
糞尿の痕に、またペット

犬が感染すると一夜のうちに死  
にいたる恐ろしいウイルスです

# どのように使ったらいいの(除菌)

## 除菌

- 手にスプレーして揉み広げます。
- マスクにスプレーします。
- まな板、包丁などにスプレーします。
- 感染者が触れたドアノブやテーブルなどにスプレーした後、拭き取ります。
- 感染者のおう吐物や片づけた後に床や絨毯などにスプレーしウイルスや菌類の拡散を予防します。
- ペットの糞尿、おう吐の処理の後にスプレーします。
- ペットの散歩の後に足にスプレーし拭き取ります。

# どのように使ったらいいの(消臭・カビの除去)

こんなところにスプレーしましょう

## 消臭

- 生ゴミに
- 室内に
- 車内に
- トイレに
- ペットの糞尿に
- 介護用品に
- タバコ臭に
- エアコンフィルターに

## カビの除去

- エアコンフィルターに
- 浴室に
- 押入れに
- 壁に
- サッシに



20cm位離してスプレーします

# ご利用が見込まれる場所



- 公共施設・・・省庁、都道府県庁、区役所、市役所、自衛隊、警察
- 病院・・・総合病院、動物病院、診療所
- 学校・・・小学校、中学校、高校、幼稚園、保育園、託児所
- 介護施設・・・老人ホーム、養護施設、特養
- 食品・・・食品工場、給食センター、レストラン、食堂、バー、スナック、居酒屋
- 交通機関・・・鉄道、道路公団、航空、バス、タクシー、船舶
- 宿泊施設・・・ホテル、旅館
- 農業・・・豚舎、牛舎、鶏舎
- 浴場・・・公衆浴場、温泉、サウナ、健康ランド
- ペット・・・ペットショップ、ブリーダー
- 美容・・・美容院、理髪店、エステ
- 娯楽施設・・・パチンコ店、ボーリング場、ゲームセンター、競馬場、クラブ
- スポーツ・・・スポーツセンター、ゴルフ場
- その他・・・会社、家庭